

学校を生かした自然体験 学びの創造

滋賀県 日野町立 ^{みなみひづき}南比都佐小学校
6年 佐々木 彩萌 野口 美久



学校紹介

南比都佐小学校は、滋賀県の東南部鈴鹿山系麓にあり、周囲を山と田んぼに囲まれた自然豊かな所です。

全校児童は116人の単級で、地元特産の「日野菜」を原種から栽培し、秋には、日野菜を収穫して「さくらづけ」や「えびづけ」などのおいしいお漬物にします。今年度、書写の研究に取組、自分の思いを豊かに表する力の育成に努めています。また、名文暗唱集「ワクワク☆ことばのもり」をもとに、全校児童が名文を誦んじたり、全校縦割りの給食や遊びなどに取組んだり、学年の垣根を越えた活動を行っています。



活動場所



学校林『ぼくらのひみつきち』は、^{みやまぐち}深山口、下迫、清田の三地区にまたがる里山雑木林です。平成12年『総合的な学習の時間』の開始とともに、この学校林の整備が始まりました。面積は、0.9haあり、学校から歩いて15分ほど900mの距離にあります。以前は琵琶湖であったことを示す古琵琶湖層が見られます。アカマツ、ヒノキ、サカキ、リョウブ、コナラなどの樹木が生い茂り、毎年秋には、林業研究会の指導のもと、保護者役員による学校林環境整備作業が行われ、児童の学習環境保全に努めています。

サミットに参加してみよう...

今復の夢・希望・活動計画

学校林は、身近な体験的な学習の場として整備が進められ、学校林の動植物等の自然に親しみ、自然に触れる活動を通して、森林の働きや大切さを学ぶことを活動のねらいとして掲げています。

そのねらいを達成するために、各学年の活動内容をさらに開拓し、1年から6年まで系統性のある学習を展開したいと考えています。

また、以前行っていた学校林での幼稚園児との交流や、子どもたちが遊びたいと思う遊びの場として、「学校林」を再生できればと願っています。



「学林を生かした自然体験、学びの創造」

滋賀県日野町立南比都佐小学校 (HPアドレス) <http://www.rmc.ne.jp/nanpi/>

発表者：6年 佐々木 彩萌、野口 美久

(1) 南比都佐小学校の紹介

・滋賀県の鈴鹿山系近く(三重県に近い)、日野町の南端の農村地帯にある学校。

- ・全校児童116名。各学年1学級の学校。
- ・『日野菜』を元の種から栽培して、お漬物作りをする。
- ・全校6色の縦割り班活動。縦割り遊び・給食、運動会等
- ・『ワクワク☆ことばのもり』での名文暗唱。
- ・字別かるた大会。冬休みに各字の会議所で百人一首の練習。
- ・小学校と垣根のない幼稚園との交流。サツマイモ植え、音楽会、運動会、図書委員会読み聞かせ等



日野菜のさくらづけ

(2) 私たちの学林『ぼくらのひみつきち』

- ・深山口、下迫、清田の3地区にまたがる里山雑木林
- ・面積0.9ヘクタール
- ・学校から徒歩15分、900m
- ・地層は古琵琶湖層



ぼくらのひみつきち

- ・山の頂上からは、周囲の集落や道路が見渡せる。
- ・学林にある樹木…アカマツ、ヒノキ、サカキ、タカノツメ、リョウブ、アラカシ、コナラ、アセビ、クリ等

学林での活動 1・2年『森で遊ぶ』



〔基地作り〕



〔ネイチャーゲーム〕



〔学林の地図〕

生活科での学習です

学林での活動 3・4年『森と友だちになる』



〔聴診器で水の吸い上げを聴く〕



〔木の皮を剥ぐ〕



〔草木を材料に作品づくり〕

総合学習の学習です

学林での活動 5・6年『森の恵みをいただく』



〔椎茸の菌打ち作業〕



〔卒業記念作品テーブル〕



〔桜もち作り〕

学林での活動 PTA、課題と今後の学習



〔PTA学林整備作業〕

学林での活動 ・貴重な自然体験
 ・森林環境保護につながること
 課題 1～6年の系統性のある学習が成り立ちにくい
 今後の学習 学林を生かし、更なる発展的な学習へ

森林環境教育の実践について

1. これまでの実践の成果（実践の効果や子どもの成長、今後の期待など）

滋賀県では、平成19年度より小学校4年生児童を対象とした「やまのこ事業」と称する森林環境学習が行われている。本校も、今年度4月27日（金）に「やまのこ事業」を行った。その事後学習を、林業研究会の方を講師に招き本校の学校林にて行った。聴診器で水を吸い上げる音を聴いたり、木の皮を剥いだりするなど、森の樹木に直接関わることで、森林が生きていることを実感することができた。そして、そのことより森林を保護していくことが、我々の住環境を良くしていくことだと感じることができた。

この学習を通して、森林をより身近に感じ、森林を大切にする児童に育ってほしいと願っている。

低学年では、学林で基地づくりをしたり、的あてなどのネイチャーゲームをしたりするなどして、学林で遊んだ。このことは、自然に触れることが少なくなっている本校の児童にとって、貴重な自然体験となった。

2. 実践の課題（苦労したことや困ったことなど）

本校では、「総合的な学習の時間」のカリキュラムの中に、「環境学習」として「学校林を活用した学習」を位置付けている。しかし、その内容が学年の発達段階に即応した内容になっているとは限らず、系統性に欠ける面がある。そのため、学習の実践においては、各担任による学習内容の開発を迫られる場面もある。ゆえに、「何をしていけばよいのか」と悩むことがあり、学習に広がりがない。

また、教職員の入れ替わりも激しく、以前この学習を得意とした教員がいなくなって、学習内容を伝えられなくなってきたことが、学習実践を行いにくくなっていることの一因になっていることと、考えられる。

学林は、夏は藪蚊が多く、足を踏み入れることが難しい。そのため、学林で活動できるのは、季節的に春・秋しか学習の機会を持つことができないのも、課題の一つと考えられる。

3. 課題への対応（工夫したことや課題の解決策など）

「学校林を活用した学習」では、樹木に専門知識を持つ教員がないので、林業研究会を講師に招いて学習の場を設定することとした。専門家を招くことにより、学習内容が広がり深めることができた。そのことが、教員にも学習内容を考えるヒントとなり、次の学習を構築するヒントともなった。

4. その他（今後の計画や方向、抱負や希望など）

再度、「学校林を活用した学習」のカリキュラムを構成していきたい。特に、発達段階に即応した、系統性のある内容を組んでいき、学習に広がり深まりがあるようにしていきたい。単に樹木だけでなく、学校林に住む生き物にも焦点を当て、学習内容の充実に努めていきたい。

森林教室(衣笠山の探検)



京都府 京都市立 ^{きんかく}金閣小学校 4年

荒川 溪太 井之口 元気 横山 凌郁
佐伯 凜 大久保 妃菜 國松 美月
初田 沙穂 畠山 奈々花 大井 凜桜

各小学校の取組
⑫

学校紹介

金閣小学校は、名前の通り鹿苑寺（通称「金閣寺」）のすぐ近くにある学校で、京都市内の北部に位置しています。元々衣笠山の分校として開校した本校は、後に第二衣笠小学校として独立開校し、今年で創立47年目を迎えます。児童数は全校で560名、各学年3～4クラスで京都市の中では中規模の学校です。

校区は鹿苑寺（^{ろくおんじ}金閣寺）周辺の衣笠平野地域、北は鷹峯地域にかけての鏡石地域、西は氷室赤坂地域、および昭和になってから開拓された原谷地域に広がっており、北区の中ではかなり広い校区です。原谷地域の児童は衣笠山を超えて、約1時間かけて登校してくる子もおります。市街地と豊かな自然が隣り合わせの、特徴ある校区と言えます。



活動場所



活動場所は衣笠山です。衣笠山は北区と右京区の境にある山です。第59代宇多天皇が真夏に雪景色が見たいと言い出し、衣笠山に白絹をかけて覆い雪景色に見せたという故事から、別名「きぬかけ山」とも呼ばれています。

衣笠山は標高201mの低山ながら、シイの大木がそびえる暗い森、ネジキやソヨゴの生える雑木林、一面のウラジロ群生地やヒノキの人工林など多様な植生が観察できます。登山口が分かりにくいことから一般の登山者は少なく、鹿の糞やリスがまつぼっくりを食べた跡なども見ることができ、時折野生の動物達も訪れているということが分かります。

サミットに参加してみよう...

今復の夢・希望・活動計画

今回子どもサミットに参加して他校の発表を聞く中で、自然をそのままにしてその植生を観察するというものと、里山として整備を進めるというものの二つが多かったように思います。

衣笠山は周囲を鹿苑寺（^{ろくおんじ}金閣寺）、^{にんまし}仁和寺、^{りょうあんじ}龍安寺などの有名なお寺に囲まれています。里山というよりは借景としての存在が大きく、手つかずの美しい自然を残してきた山ではないかと思えます。

とはいえ、山頂付近では松枯れやナラ枯れが進行しているのも事実で、ある程度整備の手を入れることも必要であると思えます。子ども達と一緒に松枯れやナラ枯れの仕組みを研究し、食い止めるための取組が進められたら意義深いのではないかと思います。



森林教室(衣笠山の探検)

京都市立金閣小学校 4年

佐伯 凜, 初田 沙穂, 荒川 溪太, 國松 美月,
大久保 妃菜, 井之口 元気, 畠山 奈々花,
大井 凜桜, 横山 凌郁

学校紹介

京都市立金閣小学校は、学校名からも分かるように、金閣寺(正式名称は鹿苑寺)のすぐ近くにあります。京都市の西北部に位置しており、学校のすぐ近くに山が連なっています。その中でも金閣寺の借景にもなっている衣笠山は、丸い形の美しい山で、市街地のすぐそばにある山ですが、豊かな自然が残っています。



金閣小学校では、10年前から森林インストラクターの方々のご指導のもと、3年生や4年生が衣笠山の自然について学ぶ活動を継続して行っています。そして、その貴重な自然を守ることの大切さを感じ取るとともに、衣笠山を「わたしたちの宝の山」とほころしく思うようになっています。

衣笠山の探検をしよう

ドクベニタケ

夏から秋にかけて発生するキノコ。有毒。衣笠山には多様なキノコが生息する。



オオルリ

溪流沿いで見られる。



巣箱の設置

意外と低い場所でもよい。

巣箱を作ろう



落ち葉集め

秋の紅葉の中、急坂を登る。赤や黄色の様々な形の落ち葉が落ちていた。

ほだ木作り

菌を打ったコナラからしいたげが発生。なめこのほだ木も作っている。



ヤマガラ

1000m以下の低山帯から平地にかけて生息する。シイやカシの林を好み、日本各地で見られる。



巣箱作り

ターゲットはヤマガラとシジュウカラ。毎年設置するが営巣にされるのはほんのわずか。

森林環境教育の実践について

1. これまでの実践の成果（実践の効果や子どもの成長、今後の期待など）

衣笠山探検を終えてから、体育でグラウンドに行くと「醤油の匂いのする葉っぱや（桂の落葉）」や「きれいな赤い葉っぱが落ちてる（楓の葉）」など、森林インストラクターの方に教えていただいた植物に、興味を示す様子が見られた。山中でも色々な木を紹介していただき、同じような林に見えても多様な植物があるということに気がついたようである。

また、松枯れやナラ枯れについても知り、切り倒された枯木がビニールに包まれて燻蒸処理されている異様な光景を目にし、問題意識を抱いたようである。

とはいえ、行くことがなければ子ども達はやがて忘れ、興味も失ってしまうもの。継続的に活動を行うことで、地域の山に対する愛着を持たせ、山や自然を守ろうとする心情を育みたい。

2. 実践の課題（苦労したことや困ったことなど）

子ども達は森林教室の活動を通して、自然が広がる山、薪やきのこなどの山の恵み、野生の動物の棲みかなど、多角的な視点で山と関わっている。森林インストラクターの方々の全面的な協力のおかげで、教師側の負担は大変軽減されている。

一方でせっかくの貴重な体験だが、森林教室の時間だけに限定された活動になっている。これだけの経験が十分に生かされていないようではもったいない。日常的に山に通うことは現実的に難しいが何とか日々の学校生活の中にも生かしていきたいものである。

3. 課題への対応（工夫したことや課題の解決策など）

標高 201 m の小さな山とは言え、自然の中であり、何が起っても不思議はない。見守る目は多いほどいいと言える。子ども達はグループに分かれて森林インストラクターの方に連れていってもらうが、それぞれ先頭と後尾に大人がほしい。そこで、保護者に対しても広く協力を呼びかけ、多くの目で見守るようにしている。

また、縦割りグループによるオリエンテーリングなどといった学校行事の中にも、衣笠山をフィールドとして取り入れている。山はやはり実際に歩いて、木々の色づきや鳥のさえずりを感じるのがよい。衣笠山を自分達の校区の山として歩く場面を、多く持つようにしている。

4. その他（今後の計画や方向、抱負や希望など）

子ども達を存分に自然に親しませるためには、色々な事象に出合う機会を持たせることと、子どもの疑問に答えられる幅広い知識が必要である。そうした専門的知識を持った人材の確保は、最も重要な点であるとともに、最も悩みの種でもある。

その点について森林インストラクターの方々は専門的な知識を持ち、地域の山にも精通しておられまさにうってつけの人材である。本校は森林インストラクターの方々の全面的な協力の下、衣笠山を題材にした環境教育を実践しており、非常に助けられている。

これからも積極的に連携を深め、より一層充実した環境教育を実現したい。